

## これからの学校教育に求められるもの

～急激に変化する予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちのために～

\*日本の学校教育は、知・徳・体のバランスの取れた人格形成を目標とする。学力のみならず、道徳教育や人間関係の構築なども身に付けることを目指す。

### ◎社会的背景

- 少子高齢化・人口減少などの問題
- 人工機能（AI）の急速な進化

### ◎学校教育における課題

- 少子高齢化による児童生徒数の減少
- 子どもたちの多様化
- 情報化への対応

### ◎これからの社会を生き抜く子どもたちに育むべき資質・能力

- 一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要  
(「令和の日本型教育」の構築を目指して 令和3年1月 答申)
- 子どもの学びにおいては、児童生徒同士の学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人や主権者としての意識を育成する。

## □現行「学習指導要領」

### ◎新しい時代に必要となる資質・能力の育成

- 生きて働く知識・技能の習得
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

### ◎子どもたちの学び

～主体的・対話的で深い学び～

- 「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業をすすめる。

### ◇「令和の日本型教育」

#### ◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」

- 子どもたち一人一人が、自分のペースで自分に合った学び方を選択し、必要に応じて必要な人と共に学び合えるような授業づくりをすすめる

探究的な学びを充実させ、自分なりの問いを立て、自分なりの学び方で、自分なりの答えにたどり着く、子どもたちの自己決定を尊重する

- ・一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」「もっと!」と思える授業に
- ・自分なりの課題を見つけ、見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に
- ・周りの人たちと共に考え、学び、深め、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に
- ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に
- ・ICTを効果的に活用する授業に（教室の外や学校の外での学びの保障、特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援、個々の能力を伸ばす学びの機会の提供）

### ◎体験活動の重要性

- AIが導入されても、五感を使った体験が「学び」の原点となる。
- 体験は、「豊かな人間性」や「自ら学び、考える力」などの『生きる力』の基盤や、子どもの成長の糧となる。

### ◎社会とつながる学校

- 学校教育の目標は、学校だけでなく、社会全体で共有する。
- 学校教育は教室の中だけでなく、地域や社会と連携して展開する。
- 学校教育に、地域住民が参画する。

## □出雲崎町が目指す教育ビジョン

### ◇「つながり合い 学び合い 共に育つ学校」

#### ◎望ましい人間関係構築からの学力向上

子ども同士の関わり合いを大切にし、子どもの成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるように促していく。

#### ◎地域に広げる協調的な幸せ

子どもたちのウェルビーイング（協調的な幸せ）が、学校を核として家庭や地域社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来に渡って世代を超えて循環する。

### □主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造

- 質の高い教育を一人一人に
- 誰一人取り残さない教育
- 最先端のICT教育の推進
- 地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域と学ぶ
- 健康を守り安全を確保する取組
- 異文化理解・グローバルな視野を持つ子どもの育成